

日本産業教育学会 第65回 関東地区部会

報告集

2021年8月21日(土)

於: オンライン

研究会プログラム

長沼将一	オンライン大学における インターンシップ科目の設計と実施	1
新井吾朗	職業訓練指導員養成における インターンシップ科目の遠隔指導 ー指導力の形成を担保する仕組みー	11
中村友基	話し方の改善による授業力向上の検討 (フィラーに注目して)	29

オンライン大学における インターンシップ科目の 設計と実施

第65回 日本職業教育学会 関東地区部会 報告1

長沼 将一
東京通信大学

結論

- 2020年度、参加者4名(新卒2名、社会人2名)が3社に参加
 - 就きたい職業が明確になる、異なる業界での業務を行って、自分の知識を深められた、という学生の感想
 - MAIというメタ認知能力の尺度で概ね向上が見られた
- 2021年度は10名(新卒2名、社会人8名)の候補者
 - 9月中に確定して11月から実習

研究の背景

- 東京通信大学は2018年4月に開学した通信制大学
 - インターネットでメディア授業を配信
- キャリア教育の一環で正課としてインターンシップを開講
 - 数少ない実習科目のひとつ
- 通信制大学において正課としてインターンシップを開講するにあたって授業設計として工夫した点・留意した点について述べる

インターンシップとは(1)

- 大学等における学修と社会での経験を結びつけることで、学生の大学等における学修の深化や新たな学習意欲の喚起につながるるとともに、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組(文部科学省)
- 産学連携による人材育成の観点から、学生の就業体験の機会を提供するもの(日本経済団体連合会)
- 専門の職業・資格取得に限らず、就業体験を行うもの

インターンシップとは(2)

- 一般社団法人 産学協働人材育成コンソーシアム(CIAC, 2017年設立)は日本学生支援機構と共同でインターンシップ専門人材セミナーを実施
- 2020年度より、文部科学省は大学院学生を対象としたジョブ型研究インターンシップを推進

授業設計にあたっての考慮事項(1)

- 東京通信大学
 - 情報マネジメント学部情報マネジメント学科、人間福祉学部人間福祉学科の2学部2学科
 - メディア授業による講義科目を主として開講
 - 演習・実習科目は多くが資格に関係する科目
 - (本人確認を除いて)一度もキャンパスに足を運ばずに卒業可能
 - 東京(新宿)キャンパス、大阪・名古屋にサテライトキャンパス
- 定員 4,000名、学生数 4,059名(2021年5月1日現在)

授業設計にあたっての考慮事項(2)

- インターンシップ A 1単位(実習5日間)
インターンシップ B 2単位(実習10日間) いずれかのみ履修可
- 科目区分 情報マネジメント学部 専門教育科目
中分類 マネジメント 小分類 企業と会計 選択科目
- 社会人経験のない、いわゆる新卒学生を主な対象
 - 社会人学生の履修を妨げない
- 上級情報処理士(全国大学実務教育協会)の必修科目

授業設計にあたっての考慮事項(3)

- 多様な学生が履修するのでレディネスを高める必要性
 - 事前履修科目を設ける
 - 履修登録以前に事前課題を課し、フィードバックして指導
 - 事前課題に基づいて担当教員と面談
 - 希望先のマッチングの際に事前課題の内容で選抜(ループリック利用)
- 資格取得が目的の学生が履修
 - 社会人経験を有する学生には免除(単位なし)の仕組みを設ける
- 地方在住の学生が履修
 - 企業・団体に宿泊施設等補助のお願い
 - 企業・団体にリモートでのインターンシップ開催をお願い

授業設計にあたっての考慮事項(4)

- 履修希望学生数並びに実習先企業・団体数の把握
 - 開講前年度にアンケートを実施
 - アンケートに基づいて実習先開拓
- 実習の内容、教育的効果の担保
 - 実習先企業・団体に実習計画を提出いただき、担当教員と協議の上で実習内容を確定
 - 事前指導の後に実習内容を学生に公開して希望先を調査

授業設計(1)

- 目的
 - 現実社会における情報技術の活用状況を実感すると共に、自身のキャリアについて考える機会を提供
 - デューイ「仕事を通じての教育は他のどんな方法よりも、学習を促す要素をたくさんその内部に結合している」
- 学習目標
 - 企業・団体で働く経験を通じて大学で学んだ理論と実践を結びつけて思考できるようになることを目指す
 - 企業・団体においてチームとして働くことができる
 - 企業・団体において働くことの意味を説明できる
 - 企業・団体で働いた経験を文章で表現できる
 - レイブ, ウェンガー 「正統的周辺参加」

授業設計(2)

• 授業の構成

- 事前学習 2回
 - インターンシップについて、ビジネスマナーの復習
- 実習 5回(A) or 10回(B)
 - 1日 7時間(9:00~17:00 休憩1時間)の労働を1回の学習とみなす
- 事後学習 1回(A) or 4回(B)
 - インターンシップ報告書執筆・提出 1回

 - プレゼンテーション準備 1回
 - プレゼンテーション 1回
 - プレゼンテーション相互評価 1回

授業設計(3)

• スケジュール

- 2020年 3月 事前登録開始(~4月)
- 5月 事前指導開始
- 7月 実習先マッチング開始(~9月)
- 10月 授業開始
- 11月 実習開始(~12月)
- 2021年 2月 報告会実施

授業実践結果(1)人数

- 受講者数
 - インターンシップA 3名
 - インターンシップB 1名(5日間を2カ所)
- 受講者属性
 - 新卒学生 2名
 - 社会人学生 2名

授業実践結果(2)実習先

- IT系 東京都立川市 1名 5日間
 - セキュリティ講習、新卒学生向けパンフレット作成
- IT系 東京都新宿区 3名 5日間(リモート)
 - システム開発工程体験、プログラミング研修、プログラミング
- 福祉系 神奈川県川崎市 1名 5日間
 - 障害者支援施設の業務補助
- 実習前後でキャリアアダプタビリティ、キャリアレジリエンス、MAI(Metacognitive Awareness Inventory)を調査

授業実践結果(3)MAI速報

- MAI(Metacognitive Awareness Inventory)
 - 成人向けのメタ認知尺度
 - 今回用いたのは邦訳版58項目7段階リッカートスケールの調査票
 - 非常にあてはまる(7点)～どちらとも言えない(4点)～まったくあてはまらない(1点)
 - 知識(宣言的、手続き的、条件的)、行動(計画性、情報管理方略、モニタリング、修正方略、学習評価)の8つの下位尺度からなる
- 実習前後の差分を下位尺度ごとに集計した算術平均

	宣言的知識	手続き的知識	条件的知識	計画性	情報管理方略	モニタリング	修正戦略	学習評価	下位尺度毎の平均
A	0.43	0.25	-0.44	0.00	-0.30	0.14	-0.13	0.00	-0.01
B	1.29	1.25	-0.67	1.00	0.50	0.57	0.50	1.67	0.76
C	0.43	0.75	0.00	0.14	0.60	0.57	0.00	0.00	0.31

授業実践結果(4)学生の感想(報告書より)

- つきたい職業が明確になった
- 今まで用いたことのない言語や上流工程の知見を今後スキルのひとつとして生かしていきたい
- 異なる業界での体験で、自分の認識の緩さを痛感した
- 講義で名称や概要を知っていたものの、具体的な作業は実施していなかったので実際の企業で用いられている手法を体験できたことで専門的な知識を深めることができた

2021年度の実施について

- 現時点で10名の学生がエントリー
 - 新卒 2名、社会人 8名
 - エントリーシートを提出してもらい、添削指導
 - 〆切時点で選考→企業での選考
- 企業は4社(昨年度から継続は1社)

参考文献・資料(1)

- 文部科学省 大学設置室, 東京通信大学 情報マネジメント学部、人間福祉学部 (4)設置の趣旨等を記載した書類①,
http://www.dsecchi.mext.go.jp/1708nsecchi/pdf/tokyotsushin_1708nsecchi_syushi1.pdf
- 文部科学省, 「「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」の見直しの背景及び趣旨について」,
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/1346606.htm
- 日本経済団体連合会, 「「採用選考に関する指針」の手引き」,
https://www.keidanren.or.jp/policy/2017/030_tebiki.html

参考文献・資料(2)

- 一般社団法人 産学協働人材育成コンソーシアム,
<https://www.j-ciac.org/index.html>
- 文部科学省, 「ジョブ型研究インターンシップ【提案内容と今後の進め方】」,
https://www.mext.go.jp/content/20200924-mxt_daigakuc03-000010089_4.pdf
- Dewy, John(1916), 松野安男訳 「民主主義と教育 上・下」,
岩波書店, 1975.
- Lave, Jean and Wenger, Etienne(1991), 佐伯胖訳 「状況に埋め込まれた学習－正統的周辺参加－」, 産業図書, 1993.

参考文献・資料(3)

- Savickas, M. L., “Career adaptability: An integrative construct for life-span, life-space theory”, Career Development Quarterly, 45, 247-259, 1997.
- London, M., “Toward a theory of career motivation”, Academy of Management Review, Vol. 8, No. 4, 620-630, 1983
- 丹羽量久, 山地弘起, Peter John Bernick, “成人用メタ認知尺度の改善と大学書年次学生を対象とした測定”, 教育システム情報学会研究報告, Vol. 33, No. 6, 2019.03.

職業訓練指導員養成におけるインターンシップ科目の遠隔指導
－指導力の形成を担保する仕組み－

○新井 吾朗(職業能力開発総合大学校)

職業能力開発総合大学校
能力開発応用系 新井吾朗
<http://araigoro.blog.jp/>
araigoro@uitec.ac.jp



1

目次

既報 安原 雅彦, 新井 吾朗, 星野 実: 職業訓練指導員の指導力養成に関する取り組みとその検証, 2020年 68巻 1号 p. 1.94-1.100 .
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsee/68/1/68_1_94/_pdf/-char/ja

- 1 指導員養成訓練における
インターンシップ(InS)(訓練実施実践・改善実践)
の位置づけ
- 2 InSの歴史
- 3 InSの課題
- 4 InS改善のアイデア
- 5 InS遠隔指導の枠組
- 6 InS遠隔指導の実施状況
- 7 InS遠隔指導の成果と課題



2

2

1. InSの位置づけ

(1) 職業訓練指導員免許取得経路とInS

~H26	H26	R1	R3
職業訓練指導員試験	→	→	→
48時間講習	→	→	→
応用研究課程	高度養成課程	→	高度養成課程 → 応用課程担当者養成コース → 職業能力開発研究学域 → 専門課程担当者養成コース
研究課程 (修士・長期課程卒)	廃止(H23募集停止)		
長期課程 (学士・高卒)	廃止(H23募集停止)		指導員養成課程 → 職種転換コース → 実務経験者訓練技法習得コース → 指導力習得コース(総合課程) → 訓練技法習得コース・技能等習得コース
専門課程(在職者)	職種転換課程	→	
	短期養成課程 (実務経験者)	実務経験者訓練技法習得コース(実務経験者)	
	長期養成課程 (研究学域(H29)) (総合課程卒・大卒)	指導力習得コース (総合課程)	
		→ 学域 → 変更 長期→	

SYOKUGYO DAI 職業能力開発総合大学校 POLYTECHNIC UNIVERSITY ©2021 G.ARAI

3

1. InSの位置づけ

(2) 訓練技法習得コースにおけるインターンシップ

授業科目名	種別	時間数	選択 必修
職業能力開発学	能力開発学科	36	必修
授業計画法		36	必修
教材開発法		36	必修
受講者支援法		36	必修
訓練評価法		36	必修
職業訓練心理学		36	必修
キャリア・コンサルティング概論		36	必修
キャリア・コンサルティング技法 I		36	必修
キャリア・コンサルティング技法 II		36	必修
人材育成支援論		36	必修
技能指導法		能力開発実技	54
受講者支援実践	能力開発実技	54	必修
訓練実施実践	能力開発実技	162	必修

SYOKUGYO DAI 職業能力開発総合大学校 POLYTECHNIC UNIVERSITY ©2021 G.ARAI

4

2. インターンシップの歴史			
H23	R1	R3	
能力開発基幹科目	能力開発学科	職業能力開発学	36 必
生涯職業能力開発論(必)講2T	職業能力開発原理 必 36	授業計画法	36 必
職業能力開発制度(必)講2T	職業能力開発制度 必 36	教材開発法	36 必
障害者職業概論(必)講2T	職業訓練心理学 必 36	受講者支援法	36 必
創業支援論(選必)講2T	授業計画法 必 36	訓練評価法	36 必
中小企業論(選必)講2T	教材開発法 必 36	職業訓練心理学	36 必
職業能力開発ゼミ(選)講2T	受講者支援法 必 36	キャリア・コンサルティング概論	36 必
インストラクション(コア)	訓練評価法 必 36	キャリア・コンサルティング技法 I	36 必
指導技術・技法(必)実1T	コース開発・運営法 必 36	キャリア・コンサルティング技法 II	36 必
専門別教科教育法(必)演1T	施設外訓練支援論 必 36	人材育成支援論	36 必
教材開発論(選必)講2T	人材育成支援論 必 36	技能指導法	実 54 必
教育訓練評価(必)講2T	CC概論 必 36	受講者支援実践	実 54 必
能力開発フィールド演習 I II 演 0.5+0.5T	CC応用 必 36	訓練実施実践	実 162 必
実務実習事前教育(必)演1T	能力開発実技	学科360H 実技 268H(628H)	
実務実習(必)実4T 272h(実4-5w)	職業能力開発原理実践 必 162		
キャリア・コンサルティング	専門別教科教育法 必 108		
人的資源管理論(必)講2T	受講者支援実践 必 162		
キャリア形成支援(必)講2T	訓練実施実践 必 108		
キャリア形成支援演習(選択必)講2T	訓練改善実践 必 162		
学習・発達心理学(必)講2T	コーディネイト実践I 必 108		
カウンセリング法(必)講2T	コーディネイト実践II 必 108		
コースコーディネーティング	コーディネイト実践III 必 108		
教育訓練計画(必)講2T	CC技法 I / II 必 54+54		
教育訓練経営論(選必)講2T	CC実践 I / II / III 必 54+54+54		
696H(卒業必須科目数17)	学科432H実技1260H(1080実践)		

5

3. InSの課題 長期課程:実務実習	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実務の場所での総合的な体験が中心 ＝習得すべき能力がはっきりしていない ・ 実務実習期間中の指導は実習先まかせ ＝施設によるばらつき ・ 巡回指導1回 (可能であれば授業見学、相談中心) ・ 取り組み姿勢を中心とした評価 	

6

3. InSの課題 長期課程:実務実習 総合的な体験

1 Introduction

－実務実習はどのように行われるか－

1-1. 実務実習は能開総合大教育の集大成

① 教える立場に立つ

実務実習は一般の教員養成でいえば教育実習に当たります。…皆さんは人に教えることの中でいかに多くのことが学べるかを体験するでしょう。…

② これまでに学んできたことのすべてを投入する

…ひとつの課題でも人に分かるように教えるには、皆さんがこれまで学んできたことのすべて、要するに皆さんの実力が試されます。力が足りなければさらに学んで、分かるように教える工夫をしなければなりません。

…職業訓練の現場は「職業人として社会に通用するための教育の場」ですから、教科内容を教えているだけではありません。…人間として学んできたことのすべてを傾けて、実務実習に臨まねばならないのです。

③ 職業生活を学ぶ

以上のような実務実習は、学生生活の間に職業生活を体験して学ぶという貴重な機会です。…

3. InSの課題 長期課程:実務実習 巡回指導

1. 巡回指導の目的と内容

巡回指導は能開大教員が実習施設に赴き、施設職員及び実習生と面接し、実習生の実習場面を観察することによって、実習を効果的なものにするための指導です。

具体的には以下の事項を行います。

- ① 施設への実習受け入れと指導に対する挨拶をする
- ② 施設からの実習生指導上の問題を伺い、協議する
- ③ 施設職員と懇談し、実務実習の運営等について意見を伺う
- ④ 学生の授業及び実習状況を観察し、指導する
- ⑤ 学生に生じている実習もしくは生活上の問題を聞き、解決にあたる

実務実習巡回指導要領

- ① 実習先施設の関係職員が、実務実習の進め方についてとまどい、疑問を持っていないか。
- ② 実習先施設の関係職員が、実習生の勤務あるいは授業ぶりについて何か感じていることはないか。
- ③ 実習計画ないしは、実際の実習状況が当校の期待に沿っているか。そうでないとするれば、その理由は何か。
- ④ 実習生が精神的、身体的、あるいは能力的に不適應の状態にあなったり、問題が生じていないか。
- ⑤ 実習生の学科または実習の授業ぶりかどうか。

3. InSの課題(長期課程:実務実習) 評価

2005年度 実務実習生評価用紙		施設名 職業能力開発促進センター	所属学科 産業機械工学科	学生番号	氏名		
備項目	運営委	施設	指導	各科	合計	採点区分	備考
B2 研究的態度		5			5	2-3-4-5	個人評価表(研究態度)
B3 協力的態度		5			5	2-3-4-5	個人評価表(協力態度)
A1a指導内容の研究		5			5	2-3-4-5	個人評価表(内容の知識)
A1a指導内容の研究		5			5	2-3-4-5	個人評価表(内容の技能)
A1b指導方法の工夫		4			4	2-3-4-5	個人評価表(指導能力)
D 総合評価		5			5	2-3-4-5	個人評価表(総合評価)
A1a 指導内容の研究						1-2-3-4-5-6-7-8-9-10	実習ノートの評価(内容の研究)
C 教育訓練の理解						1-2-3-4-5-6-7-8-9-10	報告会発表の評価
A2 計画・実践の整理						1-2-3-4-5-6-7-8-9-10	教材・資料の評価
A1b指導方法の工夫						1-2-3-4-5-6-7-8-9-10	実習ノートの評価(指導能力他)
G 総合評価点						1-2-3-4-5	総合的評価
F 事前教育・準備	20				20	4-8-12-16-20	事前教育への出席他
B3 現場実践(減点)						(-40)	実習における失点
特記事項:							
記入者印		34					
		事務局					

実務実習運営委員会事務局

2005 実務実習評価用紙



9

9

4. InS改善のアイデア NVQ(職場実践による能力認定) イギリスの職業能力の標準 軽自動車のメンテナンス 機械(エンジン)ユニットの整備

IMILV11

Overhaul light vehicle mechanical units

Performance criteria

You must be able to:

- P1 use suitable personal and vehicle protective equipment throughout all **overhauling activities**
- P2 use suitable sources of technical information to support your **overhauling activities**
- P3 prepare the vehicle mechanical unit and work area for safe working procedures as appropriate to the vehicle
- P4 assess and prepare all the equipment required, following manufacturers' instructions, prior to use
- P5 prepare, check and use the tools and equipment required correctly and safely throughout all **overhauling activities**
- P6 carry out all **overhauling activities** following:
 - P6.1 manufacturers' instructions
 - P6.2 recognised repair methods
 - P6.3 your workplace procedures
 - P6.4 health, safety and environmental requirements



NOSH, NOS Finder, 20200827確認
<https://www.ukstandards.org.uk/PublishedNos/Overhaul-light-vehicle-mechanical-units-IMILV11.pdf#search=LV11>

10

10

**イギリスの職業資格 軽自動車のメンテナンス
機械(エンジン)ユニットの整備**


**IMI QUALIFICATIONS, INCLUDING I.D NUMBERS
FOR IMI SSC TECHNICAL VCQs (2010/2011/2012)**

Please find full qualification structures, unit I.D and unit test numbers in each VCQ's Qualification Specification Part B (assessment criteria document).

Qualification Title and Route	Ofqual I.D No	Credit Value	TQT
IMI Level 2 Diploma in Light Vehicle Maintenance and Repair Competence	500/9819/6	98	980
IMI Level 3 Diploma in Light Vehicle Maintenance and Repair Competence	500/9815/9	88	880

IMI Level 3 Diploma in Light Vehicle Maintenance and Repair Competence (VCQ)¹

Unit I.D	Unit Title	Credit Value	Test No	Test Marks
LV11.1 ²	LV11.1C – Competency in Overhauling Light Vehicle Engine Mechanical Units (D/601/3786) ²	20 ²	3 ²	2 ²
	LV11.1K – Knowledge of Overhauling Light Vehicle Engine Mechanical Units (R/601/3736) ²	20 ²	3 ²	3 ²
LV11.2 ²	LV11.2C – Competency in Overhauling Light Vehicle Transmission Units (H/601/3787) ²	20 ²	3 ²	2 ²
	LV11.2K – Knowledge of Overhauling Light Vehicle Transmission Units (Y/601/3737) ²	20 ²	3 ²	3 ²
LV11.3 ²	LV11.3C – Competency in Overhauling Light Vehicle Steering and Suspension Units (K/601/3788) ²	20 ²	3 ²	2 ²
	LV11.3K – Knowledge of Overhauling Light Vehicle Steering and Suspension Units (D/601/3738) ²	20 ²	3 ²	3 ²

 SYOKUGYO DAI
©2021 G.ARAI

IMI HP. QUALIFICATION, 20200827確認
<https://tde.themi.org.uk/api/qualifications/download/21232> 11

11

**イギリスの職業資格 軽自動車のメンテナンス
エンジンユニットの整備 評価基準**

Learner Name:

UNIT REF: LV11.1C ²	UNIT TITLE: -- COMPETENCY IN OVERHAULING LIGHT VEHICLE ENGINE MECHANICAL UNITS ²		
Level: 3 ²	Route: Competence ²		
Credit Value: 2 ²	GLH: 20 ²		
Mapping: This unit is mapped to the IMI NOS LV11 ²			
Rationale: This unit enables the learner to demonstrate competency in overhauling engines. It also covers the evaluation of performance of the overhauled units and systems ²			
LEARNING OUTCOMES ²	ASSESSMENT CRITERIA ²	Ref No ²	Date ²
The Learner will: 1. Be able to work safely when overhauling light vehicle engine mechanical units ²	The Learner can: 1.1 Use suitable personal protective equipment and vehicle coverings when overhauling light vehicle engine units ² 1.2 Work in a way which minimises the risk of damage or injury to the vehicle, people and the environment ²		
2. Be able to use relevant information to carry out the task ²	2.1 Select suitable sources of technical information to support the overhauling of light vehicle engine units including: a → vehicle technical data ² b → overhauling procedures ² c → legal requirements ² 2.2 Use technical information to support the overhauling of light vehicle engine units ²		
3. Be able to use appropriate...	3.1 Select the appropriate tools and equipment necessary...		

 SYOKUGYO DAI
©2021 G.ARAI

IMI HP. QUALIFICATION, 20200827確認
<https://tde.themi.org.uk/api/qualifications/download/21232> 12

12

イギリスの教育訓練 学校フルタイム 軽自動車のメンテナンス



詳細ルート	
資格	軽自動車の保守および修理原則におけるIMIレベル3の卒業証書
期間	1年
レベル	レベル3
エントリー要件	英語と数学を含む、グレード9-4(A*-C)の5つのGCSEが必要です。これらは両方とも、英語と数学のグレード9-4(A*-C)または機能的スキルレベル2である必要があります。または英語および数学のGCSEグレード9-4(A*-C)に関連するレベル2の職業資格。
評価	理論的な知識を構築するために、さまざまな実践的な評価、オンラインテスト、および文書による課題に取り組みます。
進行	大規模な主要ディーラーまたは小規模な地元のプロバイダーで自動車業界の仕事を追跡することを選択します。
追加情報	16-18歳の学生は授業料を支払う必要はありません。19歳以上の方は、料金と資金調達について、 財務ヘルプページ をご覧ください。



Nottingham College HP, Course=Motor Vehicle, 20200827確認
<https://www.nottinghamcollege.ac.uk/courses/vehicle-maintenance-and-repair-level-3>

13

13

イギリスの教育訓練 企業アプレントイス 軽自動車のメンテナンス



1人の見習い求人を募集しています		
空席	雇用者/場所	給料
見習いモーターエンジニア (終了日: 09/09/2020)	Ristes Motor Company Limited (ノッティンガム)	£156.00(毎週)
見習いの詳細		
出席	ブロックまたはデイリリース	
開始日	この見習い期間はいつでも開始できます。	
フレームワーク/標準	自動車小売-自動車サービスおよび保守技術者(軽自動車)-レベル3	
期間	36ヶ月	
レベル	レベル3	
エントリー要件	<ul style="list-style-type: none"> •あなたは関連する仕事で週に最低30時間雇用される必要がありますが、私たちはあなたが就職先を見つけるのを手伝います。 •また、英語と数学の9~4年生(A*-C)のGCSEと、関連するレベル2資格が必要です。一部の雇用主は役割に応じて追加の資格が必要になる場合があります 19歳以上で適切な業界経験を持っているが、必要な資格がない成人は、応募を歓迎します。 すべての申請者は、入学前に英語と数学の評価を受ける必要があります。 	



Nottingham College HP, Course=Motor Vehicle, 20200827確認
<https://www.nottinghamcollege.ac.uk/courses/vehicle-maintenance-and-repair-level-3>

14

14

イギリスの教育訓練 企業アプレントイスの評価



学習・評価の記録にもと
づき資格を付与する

Requirements of the standards

Element 1 - Prepare machines for required operations

The show that you are competent by:

- 1. choosing correct specifications and checking for their correct
- 2. setting correct type of machine for the operation to be performed
- 3. setting pressure and using pressure monitoring system and setting time
- 4. using safe method and procedure and correctly ensuring work environment by their method and taking into account the factors affecting the complexity of the working process
- 5. setting operation machine conditions in the case of machine control unit and operation in practice
- 6. checking correct setting fluid for the type of operation and machine type checked
- 7. checking and using correct operation of safety mechanism
- 8. monitoring system problems with machine preparation and using appropriate solution
- 9. checking that the machine and programme conditions in health and safety regulations

評価項目にしたがって

実際の仕事をこなしていることを、実務の記録に基づいて評価する

APPRENTICESHIP AND REVIEW FORM

NAME: Abdul Basit TRADE: Time / Lead

DATE: 12/06/20 NO. LEVEL: 100 SUB-BRANCH: Time / Lead

COMPANY: Mechanic Motors CONTACT: Abdul Basit

DATE OF VISIT: 12/06/20 ASSESSOR: Abdul Basit

ASSESSMENT OF EVIDENCE AND PROGRESS - NO. AND KEY SKILLS

1. Evidence to be collected and checked for the following:

- 'A' - To be completed and signed off. It will be signed off when the assessor is satisfied that the apprentice has the skills to be assessed.
- 'B' - To be completed and signed off when the assessor is satisfied that the apprentice has the skills to be assessed.
- 'C' - To be completed and signed off when the assessor is satisfied that the apprentice has the skills to be assessed.

2. Evidence to be collected and checked for the following:

- 'D' - To be completed and signed off when the assessor is satisfied that the apprentice has the skills to be assessed.
- 'E' - To be completed and signed off when the assessor is satisfied that the apprentice has the skills to be assessed.

REVIEW OF PROGRESS

Comments on work well and suggesting the next steps.

TECH - CAS Department often to be discussed.

FUTURE ACTION TARGETS

1. Continue with the work.

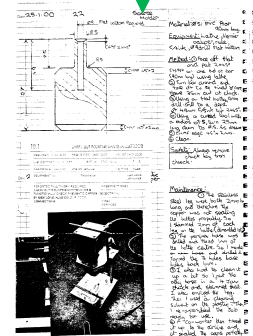
2. Continue with the work.

3. Continue with the work.

DATE & TIME OF NEXT VISIT: 12/06/20 DATE & TIME OF NEXT REVIEW: 12/06/20

CANDIDATE: Abdul Basit ASSESSOR: Abdul Basit SUPERVISOR: Abdul Basit

評価項目にしたがって
学習が進んでいることを
教育機関の評価者、
企業の教育担当者、学
習者間で合意する



5 InS遠隔指導の枠組 シラバス

専攻/科名		授業科目名 (英文授業科目名)	時間数 (単位数)	担当者
全指導科		訓練実施実践 (Training Implementation Practice)	162H (3単位)	新井 吾朗 安原 雅彦 中村 友基
科目区分	能力開発実技			
授業形態	演習			
授業方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> Moodle <input checked="" type="checkbox"/> Webex			
履修年次 開講時期	1年次 前期			

授業の目的と概要

目的(上位目標) 授業の実施にあたっては、訓練分野の特徴に合わせた指導が必要である。また各種のトラブルへの対応が求められる。また訓練は、PDCAサイクルを回すことでその質の向上が求められる。

この科目では、訓練分野の特徴に合わせた授業の準備、授業の実践ができるようになること、訓練と受講者を評価し改善策を立案する具体的な手続きを踏めるようになることを目的とする。

概要 この科目では、訓練実施の実務を通じて、訓練分野の特徴を明らかにすること、それに応じた訓練の準備(指導案、教材、到達度評価の準備)と訓練の実施、また、訓練を実施するにあたってトラブルの予想とそれに対応した準備をする実習を行う。また、①受講者からの訓練に対する評価、②公開授業による評価を事例として、訓練の改善策を提案するまでの一連の手続きを実習する。

5 InS遠隔指導の枠組 シラバス

到達目標	
(1)専門分野の課題とニーズを踏まえた授業の目的、目標、指導項目を設定できる	
(2)授業のトラブルに対応できる	
(3)授業を実施できる	
(4)指導案に沿った訓練を展開できる	
(5)訓練評価ができる	
授業計画	
1	課題A1 専門分野に応じた指導項目選択 テキストなどからの検討、指導員へのヒアリングからの検討
2	課題A2 トラブル準備 トラブル事例の収集、施設の不具合への準備、事故への対応準備 受講者間、受講者と指導員間のトラブルへの準備
3	課題A3 授業の準備 指導項目に関する技能の向上、指導案の作成、教材の作成
4	課題A4 授業の実践・評価・改善 漏れの無い授業、わかりやすい授業、受講者の理解を確かめる授業
評価方法	各課題の成果物の成否で評価する

5 InS遠隔指導の枠組 実現したい授業計画

- 適切なテーマ選択
- 現実の仕事の場面に適用できるように
- POCE(目的・目標・内容・評価)の一貫性
- だれでも同じ内容を指導すると
想像できる授業計画の記述

授業テーマ例

- 易 ・電線の輪づくりとランプレセプタクルへの結線方法
- 易 ・LANケーブルの製作
- 易 ・合成樹脂電線管の加工
- 易 ・電線接続作業(リングスリーブ接続)
- 易 ・マイクロメータの使用法
- 中 ・Windows での IP における通信状態の確認方法
- 中 ・3D CADの基本操作
- 難 ・空冷式エアコンの仕組み
- 難 ・PLCへのNPNセンサ(3線式、2線式)の配線方法
- 難 ・PLC(Programmable Logic Controller)の基本命令を用いた機器の制御
- 難 ・PaletteIDEを用いたKOBORO2のプログラミング

5 InS遠隔指導の枠組 実現したい授業計画 職業訓練における指導の理論と実際 改訂状況																																		
第1版～ 1996年 7版 (TWI)	基礎 習う準備をさせる(準備・導入) 説明をする(提示) 適用をする(適用) 確かめる(確認)	実習 準備 提示 実演 確認	学科 準備 提示 適用 まとめ	TWI 導入 提示 実習 総括	決まった手順の分解 段階指導																													
2001年 8版 (PROTS)	<table border="1"> <tr><th></th><th>動機</th><th>提示</th><th>適用</th><th>評価</th></tr> <tr><td>導入</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>提示</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>適用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>まとめ</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		動機	提示	適用	評価	導入					提示					適用					まとめ					実習 導入 提示 実習 総括	学科 導入 提示 適用 まとめ	知的管理系 技能 技能の科学					
	動機	提示	適用	評価																														
導入																																		
提示																																		
適用																																		
まとめ																																		
2006年 9版 (TWIとの対照表) 2011年 10版 2017年 11版 2020現在 31	<p style="text-align: center;">目的→目標→指導項目(指導方法)→評価</p> <table border="1"> <tr><th>導入</th><th></th><th>動機</th><th>提示</th><th>適用</th><th>評価</th></tr> <tr><td rowspan="3">展開</td><td>指導項目1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>指導項目2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>指導項目3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>まとめ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>				導入		動機	提示	適用	評価	展開	指導項目1					指導項目2					指導項目3					まとめ						仕事の場 との 結びつき	
導入		動機	提示	適用	評価																													
展開	指導項目1																																	
	指導項目2																																	
	指導項目3																																	
まとめ																																		

5 InS遠隔指導の枠組 実現したい授業計画 指導案の例						
テーマ:	げんのうによる釘打ち作業					
目的:	釘打作業の多くは釘打機によるが、細かい場所や釘打機を持ち込まなかった場合など、げんのうによる釘打ち作業を求められる場面が多い。					需要。
	げんのうによるくぎ打ち作業は、鉄の塊を振り回すことから自身の手をたいてけがをしたり周囲に危険と感じさせるなど、災害を及ぼす可能性がある。					背景 安全。
到達目標:	他方で、顧客から預かって加工している材料に傷をつけない配慮が求められる。					成否。
	また一本々の釘を現実の作業に必要なスピードで打つことが求められる。					やりやすく。
指導項目:	本実習では、/安全に、/きれいに、/ある程度のスピードで/釘打ちができるようになることを目的とする。最終的なスピードは現場での実践で向上するが、この実習でスピードを高める要点を発揮できるようにする。					育成する能力のまとめ。
	①安全(自身の手をたたかず、周囲に怖いと感じさせない)に作業できる。					安全。
所要時間:	②仕上がり美しく(釘を曲げない、材料に傷をつけない)作業できる。					成否。
	③一定のスピード(80mm10打撃)で作業できる。					やりやすく。
使用機材・教材:	①安全に作業する手順(周囲確認、初め軽く釘を固定→強く打つ)。					
	②-1 傾きの確認と修正(1打ごとに確認、傾きの反対から打つ、傾き大のとき修正)。					
所要時間:	②-2 仕上げを美しくする操作(平面と丸面の使い分け打ち込み量確認)。					
	②-3 垂直にあてる感覚(振る平面・手の高さ・肘の位置・立ち位置)。					
所要時間:	③-1 やりやすくなるコツ(釘のもちかた、釘の置き方)。					
	③-2 力強く・正確に打つ(柄の端、強く→手首のスナップ、正確に→垂直にあてる感覚との連動)。					
所要時間:	1時間	訓練対象	高卒・大工経験なし	場所	〇〇実習場	
使用機材・教材:	げんのう 1本、角材(30×60×200)×2ヶ、釘 35mm 20本、70mm 20本、狙い練習マット 1枚(数量は一人分)					

5 InS遠隔指導の枠組 実現したい授業計画

指導区分	時間	指導項目と展開
●導入 ○動機づけ		<ul style="list-style-type: none"> げんのうによる釘打ち指導員がやってみせる。長い釘で。→特徴を言わせる。 良い釘打ちと悪い釘打ちの結果を見せる→特徴を言わせる。
		<ul style="list-style-type: none"> この実習の目的を次の言葉でまとめる。 多くは、釘打ち機でやるが、細かな部分は、<u>げんのう</u>でやっている。 げんのうを振り回すので、自分の手を打ったり周囲を殴らないようにしないといけない。 げんのうでやる場合は、仕上げとスピードが求められる。
○提示	5/5	今日目標を示す。 <ul style="list-style-type: none"> 安全に釘打ちができる。 美しく仕上げられる。 一定のスピードでできる。

5 InS遠隔指導の枠組 実現したい授業計画

●展開		<ul style="list-style-type: none"> 指導項目①□安全に作業する手順。 	
○提示		<ul style="list-style-type: none"> 安全確認を説明する。 げんのうを振る範囲に人のいないことを確認。 くぎ打ちの2段階を説明する。 不用意に強く打つと釘が飛ぶ。 固定→打ち込み→仕上げ。 平らな面と裏側の面を使い分ける(理由は言わない)。 指導員がやってみせる。 	げんのう 材料 短いくぎ
○適用		<ul style="list-style-type: none"> 短い釘で訓練生に練習させる。 □5本程度繰り返させる。 	
○提示		<ul style="list-style-type: none"> 指導項目②□傾きの確認と修正。 釘が傾いている受講者を見つけ、傾きの修正を説明する。 1打ごとに傾きを見る。 傾くのは、そちらからたたいている証拠。 傾いたら反対からたたく。 反対からのたたきで修正できないときは手で修正する。 	
○適用 ○評価	10/15	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し短い釘で練習させる。 7~8本練習させる。 周囲の確認・2段階で作業していることを確認する。 	

5 InS遠隔指導の枠組 実現したい授業計画

作業分解例 げんのうによる釘打ち⁶⁴⁾

作業が成功したと判断する基準⁶⁴⁾

• げんのうで釘を支えている手をたたくない ⁶⁴⁾	安全 ⁶⁴⁾
• 周囲にげんのうを当てたり、周囲の人が怖いと感じない (←安全に釘打ち作業ができる) ⁶⁴⁾	安全 ⁶⁴⁾
• SPF材程度の堅さの木材に80mm程度の長さの釘を曲げずに打ち込める ⁶⁴⁾	成果 ⁶⁴⁾
• 木材に、げんのうの角を当てた痕をつけない (←仕上げ美しく釘打ち作業ができる) ⁶⁴⁾	品質 ⁶⁴⁾
• 80mmの釘を10打撃程度で打ち込める (←一定のスピードで釘打ち作業ができる) ⁶⁴⁾	やりやすさ ⁶⁴⁾

ステップ ⁶⁴⁾	作業手順 ⁶⁴⁾	急所とその理由 ⁶⁴⁾
構える ⁶⁴⁾	げんのうを持つ ⁶⁴⁾	げんのうの柄の端を持つ(板の厚さやくぎの太さで、持つ位置を調整する)←やりやすさ ⁶⁴⁾ 柄の平らな面で打てるように持つ←成果 ⁶⁴⁾ 2本又は3本の指で持つ(なるべく3本指で「安定するから」)←やりやすさ ⁶⁴⁾
	くぎを持つ ⁶⁴⁾	くぎの先に近いところを持つ←やりやすさ ⁶⁴⁾
	打ちやすい位置に立つ ⁶⁴⁾	周囲に人・物がいないことを確認する←安全 ⁶⁴⁾ 腕を振りやすい位置に半身に構える←成果 ⁶⁴⁾ 体の正面ではなく右腕の正面の位置←成果 ⁶⁴⁾ 柄がくぎの頭と直角にあたるようにしたときに腕、手首が背しくない高さで膝、踵で調整する←成果 ⁶⁴⁾
くぎを材料に固定する ⁶⁴⁾	くぎを所定の位置にあてる ⁶⁴⁾	くぎの先を、くぎを打つ位置に合わせてから、板に対してくぎを垂直にする←やりやすさ ⁶⁴⁾ くぎを押さえる手が、くぎの頭より出していないことを確認する ⁶⁴⁾ 周囲に人やものがないことを確認する←安全 ⁶⁴⁾
	げんのうで軽く打つ ⁶⁴⁾	手首の方だけで軽く打つ←安全 ⁶⁴⁾ くぎが材料に入り込むを感じている←安全 ⁶⁴⁾
	くきから手を離す ⁶⁴⁾	くぎが固定されていることを確認する←安全 ⁶⁴⁾
	けいめは軽く打つ ⁶⁴⁾	固定されていることを確認しながら軽く打つ←安全 ⁶⁴⁾

指導項目 ⁶⁴⁾	①手を打たない作業手順(初め軽く釘を固定→強く打つ) ⁶⁴⁾ ②周囲の確認方法(構える際に周囲の人物確認) ⁶⁴⁾ ③傾きの確認と修正方法 (1打ごとに確認、傾きの反対から打つ、傾き大のとき手で修正) ⁶⁴⁾ ④仕上げを美しくする操作方法(平面と丸面の使い分け、適度な打ち込み量、垂直にあてる感覚(握る平面・手の高さ・肘の位置・立ち位置)) ⁶⁴⁾ ⑤1やりやすさとするコツ(顔近く、釘の持ちかた、釘の置き方) ⁶⁴⁾ ⑥2力強く・正確に打つ方法・感覚(柄の端、強く(手首のスナップ)、垂直にあてる感覚との連動) ⁶⁴⁾
---------------------	---



5 InS遠隔指導の枠組 課題への取り組みスケジュール

受講生に対する訓練の実施は8月16日以降に設定していただくことを想定しています。

目次	第1期 6/28~7/9	第2期 7/12~7/21	第3期 7/26~8/6	第4期 8/16~9/1	
課題 A1 指導項目の検討	担当する訓練の打ち合わせ 担当する訓練の指導項目検討 指導員に対するヒアリング 訓練の教材・評価表などの収集 指導内容の練習 成果A1	指導内容の練習			
課題 A2 アクセント準備		施設全体のアクセント事例収集 指導項目に関するアクセント準備 使用する施設・機材の点検 成果A2			
課題 A3 訓練の準備		模擬訓練の指導案・教材の作成 成果A3		本番訓練の指導案・教材の作成 成果A3.2	
課題 A4 訓練の実践			模擬訓練の実施 成果A4.1	本番訓練の実践 成果A4.2	
Web 会議	GrpA 中村	6/30(水) 10:00~	7/14(水) 10:00~	7/28(水) 10:00~	8/18(水) 10:00~
	GrpB 安原	6/30(水) 13:15~	7/14(水) 13:15~	7/28(水) 13:15~	8/18(水) 13:15~
	GrpC 新井	6/30(水) 15:00~	7/14(水) 15:00~	7/28(水) 15:00~	8/18(水) 15:00~



6 InS遠隔指導の枠組 各課題の内容

施設実習の進め方 技法(・技能)習得/学域コース		【別紙2】
科目名	訓練実施実践	訓練期間 6/28~9/1(162H)
課題名等	課題の内容	施設にご協力いただきたい事項
【課題 A1】 指導項目の検討	① 担当させていただく授業の決定 ② 授業テーマに関する練習 ③ 授業に関する施設の計画・教材の収集 ④ 授業テーマに関する指導項目の分析 ⑤ 授業テーマに関するヒアリング調査 ⑥ 担当する授業の指導項目決定 課題提出 A1 (参考: 課題指示書 A1)	<ul style="list-style-type: none"> 施設実習期間中に受講生に対する訓練を担当させる機会を与えてください。 担当する訓練を学生と相談して決めてください。 課題関連図に示す第4期に実施できるように調整してください。 学生が担当する訓練の内容について、練習する機会を与えてください。 訓練で実際に指導する実技の内容を練習する場所、機材、材料を伝えて、指導してください。 担当する訓練を実施する機材となるシステム・ユニット訓練の設備書、ニーズ調査結果等の資料を提供してください。 テキストや印刷図書などで、訓練で指導する内容を検討させてください。 担当する訓練で扱う内容が、実際の職場でどのように扱われているのかなどを確認して、訓練内容を検討させてください。 学生がまとめた訓練のテーマ、訓練を実施する目的、到達目標、指導項目について、意見を伝えてください。 指導案については、職業大教員、他施設で学習している学生との間で指導、意見交換します。 訓練中に受講生に起こるアクシデントを想定するため、個々の受講生の特徴を把握させてください。 受講生と対面して人間関係をつくる、性格をつかむ、指導員に対してヒアリングするなどの方法で、受講生の特徴を把握させてください。(個人情報漏洩防止のためにレポートに個人を特定する情報は記載しない) 指導するユニットに関する災害事例・対策を収集させてください。 施設の災害記録・対策があれば見せてください。 訓練中の災害に対する準備をさせてください。 訓練中の災害に対応する連絡体制(防災マニュアル、施設指示等)、緊急処置の資材の所在を確認させてください。 訓練に使用する施設、設備、機器類が正常に動作すること、保守がなされていること、消耗品、予備品の準備などを確認させてください。
【課題 A2】 アクシデント準備	① 受講生の特徴把握 ② アクシデント事例収集 指導項目に関するアクシデント準備 ③ 実習場での災害対応の準備 使用する施設・機材の点検 課題提出 A2 (参考: 課題指示書 A2)	<ul style="list-style-type: none"> 学生が担当する訓練に使用する指導計画、教材などを準備させてください。 当該訓練で使用する既存の教材、用紙の資料等の所在情報を伝えてください。 指導案の記述方法は、「職業訓練における指導の理論と実践」9訂版以降の方法を指導しています。 訓練は A4.1 で模擬訓練を行った後に A4.2 で訓練に対する本番訓練を実施させていただきます。 学生が担当する訓練の準備ができたら、模擬訓練を実施させてください。 場所、機材、材料を与えていただくとともに、可能であれば受講生役になってください。また、その場で模擬訓練について、意見を伝えてください。 職業大が指定する訓練評価ツールを使って評価し、改善案を出させてください。 模擬訓練は学生自身がビデオカメラ(レンタル PC のカメラを想定していますが、施設や学生が所有するビデオカメラ、デジタルのビデオ機能、携帯電話・スマホのビデオ機能での撮影も可)で撮影し、これを職業大の担当教員、他施設で学習している学生との間で指導、意見交換します。 訓練は、学生自身がビデオ(動画)で撮影し、これを職業大の担当教員との間で指導、意見交換します。卒業生との同意を得た上で、個人を特定できないように撮影します。[担当する訓練時間は、参考として分割可能な最も小さな単位の訓練を考慮しております。1時間、15分単位、半日程度のまとまりを想定しております。]
【課題 A3】 訓練の準備	担当する訓練の教材収集 指導案・教材の作成 課題提出 A3 (参考: 課題指示書 A3)	<ul style="list-style-type: none"> 学生が担当する訓練に使用する指導計画、教材などを準備させてください。 当該訓練で使用する既存の教材、用紙の資料等の所在情報を伝えてください。 指導案の記述方法は、「職業訓練における指導の理論と実践」9訂版以降の方法を指導しています。 訓練は A4.1 で模擬訓練を行った後に A4.2 で訓練に対する本番訓練を実施させていただきます。 学生が担当する訓練の準備ができたら、模擬訓練を実施させてください。 場所、機材、材料を与えていただくとともに、可能であれば受講生役になってください。また、その場で模擬訓練について、意見を伝えてください。 職業大が指定する訓練評価ツールを使って評価し、改善案を出させてください。 模擬訓練は学生自身がビデオカメラ(レンタル PC のカメラを想定していますが、施設や学生が所有するビデオカメラ、デジタルのビデオ機能、携帯電話・スマホのビデオ機能での撮影も可)で撮影し、これを職業大の担当教員、他施設で学習している学生との間で指導、意見交換します。 訓練は、学生自身がビデオ(動画)で撮影し、これを職業大の担当教員との間で指導、意見交換します。卒業生との同意を得た上で、個人を特定できないように撮影します。[担当する訓練時間は、参考として分割可能な最も小さな単位の訓練を考慮しております。1時間、15分単位、半日程度のまとまりを想定しております。]
【課題 A4】 訓練の実践	① 模擬訓練の実施 課題提出 A4.1 ② 本番訓練の実践 課題提出 A4.2 (参考: 課題指示書 A4)	<ul style="list-style-type: none"> 学生が担当する訓練に使用する指導計画、教材などを準備させてください。 当該訓練で使用する既存の教材、用紙の資料等の所在情報を伝えてください。 指導案の記述方法は、「職業訓練における指導の理論と実践」9訂版以降の方法を指導しています。 訓練は A4.1 で模擬訓練を行った後に A4.2 で訓練に対する本番訓練を実施させていただきます。 学生が担当する訓練の準備ができたら、模擬訓練を実施させてください。 場所、機材、材料を与えていただくとともに、可能であれば受講生役になってください。また、その場で模擬訓練について、意見を伝えてください。 職業大が指定する訓練評価ツールを使って評価し、改善案を出させてください。 模擬訓練は学生自身がビデオカメラ(レンタル PC のカメラを想定していますが、施設や学生が所有するビデオカメラ、デジタルのビデオ機能、携帯電話・スマホのビデオ機能での撮影も可)で撮影し、これを職業大の担当教員、他施設で学習している学生との間で指導、意見交換します。 訓練は、学生自身がビデオ(動画)で撮影し、これを職業大の担当教員との間で指導、意見交換します。卒業生との同意を得た上で、個人を特定できないように撮影します。[担当する訓練時間は、参考として分割可能な最も小さな単位の訓練を考慮しております。1時間、15分単位、半日程度のまとまりを想定しております。]

6 InS遠隔指導の実施状況 LMS moodleへの情報集約

第1期6月28日~7月9日(目安)

[【技法 共通】訓練実施実践\(2021\)](#)

A1 指導項目の検討
担当する訓練の打合せ
担当する訓練の指導項目検討
指導員に対するヒアリング
訓練の教材・評価表などの収集
指導内容の練習

- 目録分析・授業項目設定書 様式
- 作業分解様式
- 指導案様式
- 作業分解または 目録分析と指導案の確認表

- Grp A web打合せ 6月30日(水) 10:00~ 担当 中村
利用制限 次の条件に合致しない限り利用できません。あなたが Grp A に属している場合
- Grp B web打合せ 6月30日(水) 13:15~ 担当 空原
利用制限 次の条件に合致しない限り利用できません。あなたが Grp B に属している場合
- Grp C web打合せ 6月30日(水) 15:00~ 担当 新井
利用制限 次の条件に合致しない限り利用できません。あなたが Grp C に属している場合
- テーマの提案方・POOEを一貫させる授業計画手順

6 InS遠隔指導の実施状況 手法1

- ・対面オリエンテーション
- ・全体連絡
- ・課題指示
- ・相互評価
- ・課題評価/コメント
- ・web打ち合わせ

【技法_共通】訓練実施実践(2021)

Home / マイ科目 / 【技法_共通】訓練実施実践(2021)

アナウンスメント

- Grp A 連絡 掲示板 担当 中村
- Grp B 連絡 掲示板 担当 安原
- Grp C 連絡 掲示板 担当 新井

事前説明 6月18日

- シラバス
- (1) 施設実習 施設実習の内容等について
- 学習から卒業
- 課題一覧
- 課題関連図
- 各課題指示書
- web打ち合わせ 相互評価 グループ分け表
- Grp A・B・C 相互評価 練習

27

6 InS遠隔指導の実施状況 手法2

- ・対面オリエンテーション
- ・全体連絡
- ・課題指示
- ・相互評価
- ・課題評価/コメント
- ・web打ち合わせ

第1期6月28日～7月9日(目安)

A1 指導項目の検討
担当する訓練の打ち合わせ
担当する訓練の指導項目検討
指導員に対するヒアリング
訓練の教材・評価表などの収集
指導内容の練習

- 目標分析・視察項目設定書 様式
- 作業分解様式
- 指導案様式
- 作業分解または目標分析と指導案の確認表

Grp A web打ち合わせ 6月30日(水) 10:00～ 担当 中村

Grp B web打ち合わせ 6月30日(水) 13:15～ 担当 安原

Grp C web打ち合わせ 6月30日(水) 15:00～ 担当 新井

テーマの投入方・POCを一貫させる授業計画手順

GrpA 課題A1 指導項目の検討 相互評価

GrpA 課題A1 指導項目の検討 提出場所

28

6 InS遠隔指導の実施状況 授業実施に向けた課題

訓練実施実践課題指示書

A1:指導項目の検討	
課題	実践実務期間中に担当するアビリティ訓練の目的・到達目標・指導項目を検討する。
課題への取組条件	(1) 担当させてもらう授業の日時、テーマを決める。 (2) 担当させてもらうテーマについて、自身の能力を十分に高める練習を行う。 (3) 施設が計画している訓練の計画表(訓練全期間の計画、教科目の計画、担当するテーマの計画、指導案、教材、システム・ユニット資料(計画、ユニットテキスト、課題など)を収集する。 (4) 作業分解または目標分析等で指導項目を検討する。 (5) 該当部分を担当している指導員にヒアリングを行う。(指導内容が現実の仕事のどのような場面で使われているのかの情報を含むこと。)
注意点	(1) 担当する訓練の時間数は、1 時間、1 時限、半日(3 時間)程度を標準として、意味のある指導項目のまとまりとなるよう指導担当者で決める。 (2) 担当する訓練の内容は、この訓練で新たな指導項目を指導する場面を含むこと。過去に指導された内容の復習などは不可。 (3) 課題の条件に示した各作業を実施する際は施設の担当指導員や訓練課長にその主旨と具体的な作業方法を説明し、理解を得ながら実施すること。 (4) 訓練の目的・到達目標・指導項目の検討にあたっては、施設で用意されている教材を順に解説する指導項目とするのではなく、それらを現実の仕事の場面に適用できるようにすることを到達目標として、指導項目を検討すること。施設が用意している教材で指導項目が足りているわけではないことに注意すること。
	担当訓練科の全体像・修了生の就職先の状況を把握する。 ↓ 担当する訓練が決まれば、現実の仕事の中での使われ方に関する情報を収集する。

29

6 InS遠隔指導の実施状況 授業実施に向けた課題

に済ませておくこと	担当するテーマについての練習は、施設で用意されている教材や訓練課題の練習にこまめ ず、現実の仕事の中でそのテーマに関する能力を発揮できるように練習する。 ↓ 現実の仕事を十分に把握した上で、A1 課題に取り組む。
提出する成果物	成果 A1 (1) 目標分析・作業分解・指導案確認表(指導案概要部と目標分析または作業分解までの確認 結果) (2) 指導案の前書き部(目的・到達目標・指導項目・対象者) (3) 収集した計画表類 (4) 指導員に対するヒアリングの結果 (5) 目標分析または作業分解の結果
成果物の提出方法	(1) 「GrpX 課題A1:指導項目の検討 相互評価フォーラム」に投稿し、グループメンバー間で相 互評価を行う。 (2) 相互評価の結果、修正すべき点を修正して、「GrpX 課題 A1:指導項目の検討 提出場所」 にファイルを登録する。 成果物の全てを1つの pdfファイルにして提出する。
提出物の評価基準	(1) 指導案の目的、到達目標、指導項目を明らかにするのにふさわしいヒアリングが行われてい ること。 (2) 指導案前書き部の中で、目的、到達目標、指導項目、対象者が整合(POCE の一貫性)して いること。 (3) 指導案前書き部が、収集した計画に整合していること。 (4) 指導案前書き部が、ヒアリング結果、目標分析・作業分解の結果と整合していること。 提出物が評価基準に達していない場合、不足部分を指摘した上で再提出を求める。

30

6 InS遠隔指導の実施状況 相互評価

Re: C3グループ
2021年07月8日(木曜日) 14:17 - 01 の投稿
01 からです。よろしくお願いします。

[指導案.docx](#)
[目標分析.docx](#)

[パーマリンク](#) | [親投稿を表示する](#) | [編集](#) | [分割](#) | [削除](#) | [返信](#)

Re: C3グループ
2021年07月8日(木曜日) 16:31 - 03 の投稿
お疲れ様です。03 からです。
気になった点を挙げてさせていただきますので、参考にしてください。
目的に安全に関する項目がない点が気になりました。

相互評価に期待する効果

- ・優秀な取り組みにレベルを合わせる
- ・指導することで学ぶ効果
- ・評価項目を習得する(評価基準は提示済み)
- ・提出物のレベルが高まる

到達目標に2台のPCを接続できるがあるので、実際にリピータハブを用いて接続すると想定して、LANケーブルの配線にゆとりを持つことなどが重要になると思います。そういった内容を書いてみたら良いのかなと思いました。

ここからは個人的な感想なのですがテーマが同一ネットワーク内の通信方法ということで、目標が2台のPCを接続できるとありますが、2台のPCを接続しなくても施設のPCのネットワークをそのまま使い、ルータ(デフォルトゲートウェイ)と通信することもテーマの内容は満たせると思いました。

この場合、配線作業などが要らなくなり、安全面に関しては書かなくても良くなると思います。

[パーマリンク](#) | [親投稿を表示する](#) | [編集](#) | [分割](#) | [削除](#) | [返信](#)

31

31

6 InS遠隔指導の実施状況 相互評価 教員の介入

Re: C3グループ
2021年07月9日(金曜日) 08:22 - 新井 吾朗 の投稿

(1)目標分析は、もう教段、詳細に分析しないと指導項目ができません。

ここで、指導項目と言うときには、だれが見ても同じ内容を指導することをイメージできる項目です。

例えば、

「1リピータハブを用いて適切にPCを接続できる」の下には、多数の内容が入りそうです。LANケーブルの接続の話なのか、ネットワークの規格の話が入るわかりません。

「2.1コマンドプロンプトを管理者として起動できる」は、だれでも同じ理解をしようです。

「2.2 pingコマンドを利用できる」は、コマンドを打てるだけの話か、結果の判断も入るのか?

(2) 目標分析の各要素は「説明できる」はダメです。多分、今回の場合は、「設定できる」になるんじゃないでしょうか?

(3)指導案の指導項目には、目標分析のすべての要素を記述します。目標分析の授業項目設定書を作成して、授業項目設定書のすべてを指導案の指導項目に記載します。

低位の要素ごとに改行するか、1つの指導項目の後ろにまとめるかはお任せします。

例 改行の場合

1.
1.1
1.1.1
1.1.2
1.2
1.2.1

教員介入の効果

- ・教員が期待するレベルの周知
- ・評価ポイント(評価基準の実感)の重視

 SYOKUGYO DAI
職業能力開発総合大学校 POLYTECHNIC UNIVERSITY
©2021 G.ARAI

32

32

6 InS遠隔指導の実施状況 課題へのコメント事例1_1

7/15 1045 要修正再提出

(1)POCEが一貫していません。

指導案目的やりやすくが到達目標以降に反映していない。

(2)到達目標に「説明できる」はだめ

目的に合わせるなら、「通信が確立していることを確認できる」でしょう

(3)目標分析も説明できるはだめ

(4)目標分析はもう1, 2段詳細に分析する必要がある

例えば、

「2.2 ネットワーク部について説明できる」は、まず、「2.2 ネットワーク部の適否を判断できる」となり、そのために、何ができればいけないのか、さらに分析が必要になる。

7/14 0845 要修正再提出

(1)指導案 目的 需要 ヒアリング結果を踏まえて、現実の仕事で使う場面を想定してください。

あたりまえにどこで使うのかを記述すれば良いです。

(2)指導案 目的 成否 「説明できる」という使う場面はありません。やりやすくに記述している、「自身のIPアドレスを調べ」る必要があるなどは、ネットワークがつかない場面で、「windowsPCをインターネットに接続する」という需要場面で、「IP他をPCに設定する必要がある」という成否が求められるときのひとつのやらなければならない要素と考えられます。

常に、実務上、求められる事項と考えてください。

(3)訓練計画中の、どのシステム、ユニットに対応する授業なのかわかりません。マークをつけるなどして示してください。ユニットシートも追加してください。

6 InS遠隔指導の実施状況 課題へのコメント事例1_2

7/27 0945 OKです

ただし、ipconfigコマンド、2進数とは、ブロードキャストアドレスとは、pingコマンドについては、それぞれ、「使い方」「判別のしかた」などに修正してA3に反映させてください。

7/20 1015 要修正再提出

指導案の指導項目を目標分析の項目と合わせてください。

例えば、

2.1 ネットワーク部とホスト部の判別方法

2.1.1 2進数の扱い方

2.1.2 サブネットマスクから見るネットワーク部の判断方法

上記のように記述すると、

概念を説明する だけでなく、

概念にそって設定する方法、設定が正しいことを確認する方法が説明され、練習する訓練なんだと認識できます。

目標分析からは、そのような能力が形成されるのだろうと、期待されます。

7/16 0907 要修正再提出

前回指摘した目標分析をもう1・2段詳細に が、できてません。

例えば、ブロードキャストアドレスを判断できる とは、何ができれば判断できると言えるのでしょうか？

IPアドレスを調べられる、PC間の通信状態を確認できるとの関係が出てくると思います。各ツール(ipconfig,ping)での確かめ方や、通信確認の結果からブロードキャストアドレスの誤り(どのホスト、ルーターなど)の予想など、通信状況の確認のために、できなければならない実務的な要素が出てくるはず

6 InS遠隔指導の実施状況 課題へのコメント事例3



授業の実践	項目	コメント・アドバイス
導入		
実習との関係からの目的説明		実習を仮書で行うのは時間がかかる。PPTなどで短時間
到達目標の明示		目的の説明を計画書に行う。
背景知識の提示		Contexts を使わずに、それが現実の仕事の中でのような意味を持つのかを説明する。計画書に説明し、なら、説明しやすくなる計画を変更する。
展開		
動機づけ		導入から展開への移行がスムーズ。これから内容に入ると、はっきり宣言する。指導項目の1.4の裏付け、「基本命令が大切」と言っているが、指導書の計画の内容を言っていない。
進捗		計画書に言えない計画が適切でないなら、動機づけで言っている内容を修正する。指導の指導項目についても同様。
指導項目を明確にした説明		各指導項目の提示を、作業の流れの中でなんとなく説明している。
指導項目に適した提示方法(口頭)		その流れの中で、これから説明する内容がなんなのかを宣言してから説明する。
実習・映像・資料の選択		提示・適用が終わったら、そこまで何を説明したのかをまとめてから、次の指導項目に移行する。
一問に答えられる範囲の提示		新習作の一問までの範囲に、まとめ、質疑を行っているのは良い。
提示(説明)と進捗(実習)のバランス		指導項目に入るタイミングを宣言する。
わかりやすい説明		また、最後のまとめの際に、各指導項目の重要点を再度言い、それについて質問した。最後は、新規作成の際、「シンプログラム」ラダープログラムの生徒が重要など。
テキスト・板書・視覚教材などの活用		
効果的な利用		
進捗(学習)		

テーマ	設定目標					
＜概要＞	指導書の説明は原則に基づいて書かれているため、それを読むために原則についての理解が求められる。					
目的	＜概要＞ 原則の形式(約束)を判断できる。 したがってこの訓練では、原則の形式(約束)を判断できるようにすることを目的とする。					
到達目標	1 原則の形式(約束)を判断できる					
指導項目	1 原則の形式(約束) 1-1 原則の原則 1-1-1 原則の原則 1-1-2 原則の原則 1-1-3 原則の原則 1-1-4 原則の原則 1-1-5 原則の原則 1-1-6 原則の原則 1-1-7 原則の原則 1-1-8 原則の原則 1-1-9 原則の原則 1-1-10 原則の原則 1-1-11 原則の原則 1-1-12 原則の原則 1-1-13 原則の原則 1-1-14 原則の原則					
評価区分	時間	指導項目・展開方法	準備(時間)	準備(教材)	準備(環境)	備考
導入	5分					
展開	10分					
評価						
準備						
評価						
準備						
評価						

35

7 InS遠隔指導の成果と課題

成果:

- PTUが期待する能力の育成を遠隔地でもPTU主導で実践できるようになった
- 全員が到達目標に到達し、「できるようになったね」と言って終われる

課題:

- 確信的に言われたことしかやろうとしない(真意を受け取ろうとしない、学習観のズレ)受講者への対応
(評価段階の評価項目明確化/解説により
学習段階での学習を軽視するようになる ジレンマ)
- 指導に要する時間
(実習時間162時間に対応が必要)
- InS先でのPTU教員と同レベルの評価の確保
(英国NVQ、フィンランド徒弟訓練では、指導・評価ができる派遣元が認める実習先に派遣する、InS受入資格)
- InS先のInSに対する認識
(先方指導の位置づけ・活用、経験偏重、実務補助・実務引継への期待とのバランス)
- オンライン学習環境の整備

36

話し方の改善による授業力向上の検討 (フィラーに注目して)

職業能力開発総合大学校
中村 友基

研究の目的

話術の中でも「フィラー」に注目。
「不必要なフィラー」を低減し、話し方改善による授業力向上を目的とする。

授業力 = 話術、授業構成、板書など

話術は、全ての教科に関係

現状の知識、技能の有無に関係しない



新人、ベテラン、指導内容を問わず対象となる

フィラーとは？

フィラーとは
「えー」、「あー」等の「それ自体に意味を持たない発話」を指す

フィラーの機能

- ・話し手の発話権の保持機能を有する可能性 (水上、山下2007)
- ・話し手の心的操作として捉えられ得る (定延ら1995) 等

言語学、心理言語学などの観点から研究が進んでいる。

フィラーに関する先行研究

教員の話し方が授業の満足度に大きく関わる可能性 (松河ら2011、松河2013)。

フィラーの談話標識などの機能について (宮永2009、小出2006)。

フィラーにより聞き手が後続句の複雑さを予測する可能性 (渡辺ら2006)。

フィラーが話の聴きやすさ、理解しやすさに影響を与える可能性
(KONDO2004、Nishizakiら2007)。

フィラーに関する先行研究

フィラーの頻度や長さについて (Nishizakiら2007)。

Table 1: The rate of filled pauses.

Rate	12%	6.5%	0%
Rank 1	20 [13]	15 [28]	21 [15]
Rank 2	13 [18]	30 [22]	13 [16]
Rank 3	23 [25]	11 [6]	22 [25]
Score	-3pt [-12pt]	+4pt [+22pt]	-1pt [-10pt]

* listenability [understanding]

Table 3: Duration of filled pauses

duration (long, short)	(long,short)	(short,long)	original
Rank 1	13 [14]	11 [8]	15 [17]
Rank 2	16 [13]	7 [9]	16 [17]
Rank 3	10 [12]	16 [17]	8 [5]
Score	+3pt [+2pt]	-10pt [-14pt]	+7pt [+12pt]

* listenability [understanding]

先行研究から、

- ・ フィラーが多い = unnecessary フィラーが含まれている
- ・ フィラーはゼロが最良ではない

フィラーに関する先行研究

フィラーには主張を和らげたり、断定を回避する機能が研究されている。

上記の必要性が授業談話では少ない → 教師はフィラーが少ない
「エート」や「マー」は限られた人が癖のように発話する (小林2011)。

実態は・・・

「 unnecessary フィラー」が多いと予想される。

先行研究の問題点

職業訓練におけるフィラーを研究対象としているものはない

先行研究では

研究対象（聞き手）が小学生～大学生

授業の担当時間が1時間程度（一般的なもの）

} 職業訓練とは大きく異なる



フィラーを発する要因や傾向、フィラーが及ぼす影響にも先行研究とは異なった結果が予想される。

研究の目的（再掲）

話術の中でも「フィラー」に注目。

「不必要なフィラー」を低減し、話し方改善による授業力向上を目的とする。

授業力 = 話術、授業構成、板書など

話術は、全ての教科に関係

現状の知識、技能の有無に関係しない



新人、ベテラン、指導内容を問わず対象となる

研究計画

- 1：職業訓練施設（ポリテクセンター）のFDの現状調査
- 2：指導員のフィラー頻度とフィラー形式の傾向に関する調査
- 3：「不必要なフィラー」を発する要因に関する調査
- 4：「不必要なフィラー」の個人差の要因に関する調査
- 5：フィラー低減のトレーニング手法の開発

職業訓練施設のFDの現状調査

授業力向上について、現状では不十分なのか？

現状 研究公開訓練：授業観察＆研究会
（内容・目的からFDの一類型に相当すると見做せる）

研究公開訓練について、下記を調査する

- ・公開訓練の進め方、
- ・授業力の評価方法、
- ・研究会の実施方法、
- ・指摘事項の改善の確認

調査方法

- ・研究公開訓練の参加者へのアンケート
- ・公開者へのインタビュー

職業訓練施設のFDの現状調査

予想される調査結果

- ・ 問題点の指摘しにくさ
- ・ 問題点があった場合、その改善手法がほとんど提示されない
- ・ 問題点が改善されたかどうかのチェック機能が無い



改善するために
何をすれば良いか、改善効果があるのかが見えない

職業訓練施設のFDの現状

結果が伴うかどうか不明確な行動を人間は実行に移しにくい
(行動分析学「行動随伴性」)

逆に、
授業力向上が期待できる場合、授業改善のための行動を起こしやすくなる。



フィラーについて、改善を支援する

フィラー頻度とフィラー形式の傾向に関する調査

フィラーには発話されやすい環境があるとされている

(川田2010、魏2015など)。

職業訓練という環境において、どのような傾向が現れるかを調査する。
調査方法（録音データの書き起こし等）

- ・ 訓練中の指導員のフィラーの頻度
- ・ 指導員のフィラーの形式



先行研究と比較することで「不必要なフィラー」の
発話改善支援の手掛かりとなる可能性が考えられる

「不必要なフィラー」を発する要因に関する調査

フィラー発話の要因の先行研究

緊張状態では出現しやすいと考えられる（定延ら1995）。

相手との親近性、対面性、説明難易度の影響を受ける可能性（山下、水上2007）。

下記の3つが職業訓練においてフィラーに影響を与えていると予想し調査する。

- ・ 指導員の「あがり」
- ・ 訓練生
- ・ 指導する内容の理解

「不必要なフィラー」を発する要因に関する調査

調査項目の根拠

訓練生の方が指導員よりも年齢が上である場合が多い

訓練生の方が指導員よりも知識を有している場合がある

実際の仕事現場の知識や考え方も必要となる



特に若手指導員には自信を持って授業に臨むことは困難。

「不必要なフィラー」を発する要因に関する調査

調査方法

- ・ 指導員へのアンケート
 - 授業準備の状態
 - 授業内容の理解・自信
 - 緊張度合いなど
- ・ 訓練中、研究会、談笑中などのフィラー出現傾向の比較

予測される調査結果

- ・ 「あがり」の有無でフィラーの頻度や傾向に差が現れる
- ・ 授業内容の理解や自身等と「不必要なフィラー」との相関が見られる

「不必要なフィラー」の個人差の要因に関する調査

フィラー発話の個人差の先行研究

講演中のフィラーの出現数とその要因について（渡辺、是松2018）

要因：年齢、学歴、講演経験、節中語数など

節中語数とフィラーの出現確率について（渡辺、是松2018 渡辺、白旗2019）



発話内容の構築にフィラーが関係

フィラーが少ない人には共通した特徴的な傾向があると予想される。

「不必要なフィラー」の個人差の要因に関する調査

仮説

(1)発話前に脳内で内容を詳細に構築することでフィラーが減少する

(2)フィラーが少ない人は発話内容の構築能力が高い



発話内容の構築能力 = 文章構成力、要約力？

「文章構成力」、「要約力」とフィラー頻度の個人差との相関の調査

課題

「文章構成力」、「要約力」をどのように数値化するか？

フィラー低減のトレーニング手法の開発

本研究は、「不必要なフィラー」の減少により授業力の向上を目的としている。

ここまでの調査結果を基に、

- ・フィラー低減に必要とされる能力を洗い出し
- ・その能力を向上させる練習方法を適用 → フィラー減少

開発した手法を「不必要なフィラー」が多い指導員に適用し、変化が見られるかを検証・考察する

参考文献

上野未来、関谷大輝(2018).

「えーと、あの一、まあ…」一不適切なフィラーが聞き手による印象評定に及ぼす影響一. 感情心理学研究, 26 Supplement号 : 41

川田拓也(2010).

日本語フィラーの音声形式とその特徴について一聞き手とのインタラクションの程度を指標として一. 京都大学 博士論文

魏 春娥(2015).

談話におけるフィラー「ま（一）」の待遇差に関する予備的考察. Journal of East Asian Studies, 13 : 75-93

小出慶一(2006).

フィラー「この一」「その一」「あの一」について：その由来、機能、相互関係」. 埼玉大学紀要(教育学部), 42(2) : 15-27

参考文献

- J.KONDO(2004).
Japanese Learners' Oral Narratives: Linguistic Features Affecting Comprehensibility. 世界の日本語教育, 14 : 53-74
- 定延利之、田窪行規(1995).
談話における心的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」と「あの（一）」—. 言語研究, 108 : 74-93
- 城仁士、吉井海雄(2014).
教育実習における「あたり」の原因と対処との関係について. 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 7(2) : 21-27
- H.Nishizaki, M.Somiya, K.Kobayashi, and Y.Sekiguchi(2007).
The Effect of Filled Pauses in a Lecture Speech on Impressive Evaluation of Listeners. InterSpeech , 2673-2676

参考文献

- 松河秀哉(2013).
共通教育賞と授業評価アンケートの関係の分析を通じた「優れた授業」を規定する要因の検討. 大阪大学高等教育研究, 1 : 9-24
- 松河秀哉、齊藤貴浩(2011).
データ・テキストマイニングを活用した授業評価アンケートフィードバックシステムの開発と評価. 日本教育工学会論文誌 , 35(3) : 217-226
- 水上悦雄、山下耕二(2007).
対話におけるフィルターの発話権保持機能の検証. 認知科学, 14(4) : 588-603
- 宮永愛子(2009).
出現環境からみた「あの」の談話機能—修復との関わりから—. 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部, 58 : 253-260

参考文献

宮永愛子、大浜るい子(2011).

道教え談話におけるフィラーの働きー「あの」に注目してー. 日本語教育, 149 : 31-38

山下耕二、水上悦雄(2007).

図形説明課題対話におけるフィラーの分析ー心的マーカによる内的処理プロセスの理解へ向けてー. 自然言語処理, 14(3) : 39-60

渡辺美知子、是松優作(2018).

「日本語話し言葉コーパス(CSJ)」模擬講演における節頭フィラーの特徴. 言語資源活用ワークショップ発表論文集, 3 : 578-585

渡辺美知子、白旗悠真(2019).

節中のフィラー「エー」「アノー」「マー」の出現確率に関する要因. 言語資源活用ワークショップ発表論文集, 4 : 359-367

参考文献

渡辺美知子、広瀬啓吉、伝康晴、峰松信明(2006).

音声聴取時のフィラーの働きー「エート」による後続句の複雑さ予測ー. 日本音響学会誌, 62(5) : 370-378

小林美恵子(2011).

授業談話データベースによる実態調査ーフィラーの様相ー. ことば, 32 : 109-122